

第1学年 学級活動（2）指導案

日 時 令和元年6月11日（火）第5校時
場 所 越知小学校 1年教室
対象学級 1年 23名
指 導 者

1. 題材 「みんなできょうりょく ～すーぱー1ねんせいになるために～」

2. 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、男女ともに明るく活発で友だちと仲良く遊ぶ姿が多く見られる。そして、困っている友だちがいると「大丈夫？」と声をかけ、一緒に問題を解決する姿も見られる。また自分の気持ちや思いを強くもっている児童がほとんどである。しかしその反面、その思いを相手に押し付けてしまいトラブルになることが多い。さらに、その思いをうまく表現することができずに心の中で我慢している児童も多くいる。

4月から、「なかよし」「げんき」「がんばる」の学級目標を中心に取り組みを行ってきた。その中でも「なかよし」というキーワードを大切に、レクリエーションや遊びを通して仲良く活動する場面を多く取ってきた。就学前の保育園と幼稚園の隔たりは縮まってきたが、まだまだお互いの性格を十分に理解することまでには至っていない。

（2）題材設定の理由

1年生は男女関係なく仲良く遊ぶことができるが、その遊びの中で様々な気持ちが出てくる。楽しい気持ちや悲しい気持ち、また悔しいという気持ちを経験している。そのような気持ちで過ごす中で、この学級の児童たちは自分の思いが強く、相手に気持ちを押し付けてしまいトラブルになることがある。また、互いのよさやこだわりを理解できていないことから、しつこく関わり続けるようなことがある。そこで、本題材を「みんなできょうりょく ～すーぱー1ねんせいになるために～」を設定し、自分たちの学級の実態を知り、自分たちでどうしていけば学級がよりよいものになるのかを考えていくことにした。学校生活の中で、自分の生活を振り返り、主体的に友だちへの温かな接し方を考え、実践することができるようにする。またこれは特別活動の年間指導計画に位置付けられている「学級の人間関係の育成」に位置付け、自分や相手のよさを知り、温かい言葉がけが実際の生活でもたくさんできるような取り組みとする。

（3）幼児教育の特性を生かした指導のポイント

幼児教育では、「環境を通して行う教育」を大切に、子どもの主体性を何よりも大切にしている。幼児が主体的に活動するためには、保育者の環境構成と援助が重要になってくる。本学級の児童は、保育園と幼稚園の2園から卒園した子どもたちを受け入れている。どちらも統一して、子どもたちが自由にやりたいことを自ら判断して活動できる環境に力を入れた教育をしている。これまでに、児童は保育・幼児教育の中で以下のような取組や関わりを受けてきている。

- ・子どもが「やってみよう。」と思うような手立てを考え、あそびの中で保育者も幼児と共に考え、見通しをもち友だちと一緒に目的に向かって活動している。
- ・ほとんど指示がなく幼児の思いを汲み取ることに時間を使っており、子どもが主体的にそして自分の思いを友だちに伝えながら学びに向かっている。

小学校でも見通しをもって主体的に活動できるように環境構成を整えているが、学習が進むにつれ児童の成長差が見られ、意欲の継続が難しい場面が見られ始めた。その原因として、指導者が子どもの意見を問う前に指示や指導をしてしまうことが挙げられる。このため、児童の意欲を低下させてしまい、指示待ちの児童が増えてきているのではないかと考える。

そこで本単元では、児童が主体的に活動できるように、まず、自分たちの生活の中でのよさや課題を見つけさせその解決に向けて自分事として考え、さらに自己決定する場面を位置付ける。学級のよさや課題を知ることによって「こうしたいからみんなで話し合おう。」という意識を高めていく。ただ「みんなとなかよくしましょう。」で終わるのではなく、なぜ仲良くするのか、仲良くするとどのようなことが起こるのかを児童全員が共有できるようにしていきたい。幼児教育の指導のポイントを生かしていけば、「みんなでよくしていこう。」

「もっとこうしていきたい。」といった意欲を高めていけるのでないかと考えた。

なお、次のアイウの要素は、児童が通っていた幼稚園、保育園への聞き取りを基に就学前の幼児教育で保育者が育ててほしい姿に対して環境や援助の具体的な取り組みとしていた内容をまとめたものである。これらの視点は、この時期の一年生の日々の学校生活でもつながりとして意識をしたい点でもある。

本時では、この中の何点かを幼児教育の特性を生かした指導のポイントとして活用する。

ア この単元で特に生かされる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

この単元に特に生かされる 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	接続期前期（５歳児後半）に見られた具体的な幼児の姿
②自立心	・自分で出来ることは自分でし、できないことは実現できるように工夫したり友だちや保育者の助けを借りたりして最後までやり遂げようとしている。
③協同性	・友だちと関わりながら互いの思いや考えを出し合って、工夫したり、協力したりしてやり遂げていた。
④道徳性・規範意識の芽生え	・してよいことや悪いことがわかり、自分の行動をふり返ったり、友だちの気持ちに共感したり、相手の気持ちを考えて行動したりしている。
⑤社会生活との関わり	・様々な機会を通して地域のいろいろな人と触れあい、親しみの気持ちをもつようになった。
⑥思考力の芽生え	・友だちや保育者の考えを聞いたり、取り組む様子を見たりして、自分の考えたことを再考したり、新しい考えを生み出したりして楽しんでいた。
⑨言葉による伝え合い	・様々な体験を通して生活に必要な言葉が分かり、場に応じて使うようになっている。聞いてほしいことがあった時には、自分なりの言葉で相手に伝えようとしていた。

イ 保育者の環境構成

- A 友だちと共通のイメージや目的をもちやすいような素材や道具を用意している。
- B 遊びをすぐに始められるように場を整え、用具や素材などを分類して、目につくところに置いておく。
- C 活動に見合う道具の種類や材料の量の準備をしている。
- D 活動の時間や場所の調整で幼児自らが環境の再構成ができるようにしている。
- E 幼児自らが見通しをもち生活ができるように、生活の流れや時間の目安が分かるような視覚支援をしている。

ウ 保育者の援助

	パターン	援助の内容
1	やりたいことの実現	みんなで力を合わせてやり遂げた達成感を味わえるようにする。
2	認める	幼児の思いや考え、言動、行動を理解し、褒めたり認めたりする。自分や友だちの成長を認め合えるようにする。
3	話を聴く、受け止める	経験したこと、思いや考えを話したり聞いたりする機会をもつ。
4	相談する、提案する	幼児に何か相談したり、提案したりする。友だちと思いを伝え合う喜びを味わえるようにする。
5	見守る	めあてをもって自分たちの力で成し遂げようとしている姿を見守り、達成することで自信に繋がるようにする。
6	一緒に考える	みんなで話し合いの場をもつ。
7	一緒に遊ぶ	遊びが楽しくなるような雰囲気作りや少し難しい内容をいれるなど工夫をする。みんなで力を合わせて遊ぶことの楽しさや充実感を味わえるようにする。
8	共感する	幼児の意見や感情などを捉え、信頼関係を築く。
9	くり返す	安心感を与え、思いや気持ちを言いやすい環境作りをする。
10	安心させる	寄り添い声をかけたり、抱きしめたりするなどして安心させる。
11	助ける	思考や行動が止まったときには、言葉を代弁したりゆっくり待ったりなどする。

3. 第1学年及び第2学年の評価規準

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の身の回りの問題に関心を持ち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しむために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しむことの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

4. 事前の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
5月28日 (火)	・ 題材を知る。 ・ アンケートを取る。	・ 題材を共通理解できるように分かりやすく助言する。	【関心・意欲・態度】 ・ よりよい学級生活づくりのために自分の思いを進んでアンケートに書いている。 ＜アンケート用紙＞
6月10日 (月)	・ 絵本の読み聞かせを通して自分や友だちのよさを知る。	・ 友だちのことを否定的に考えず、人それぞれのよさがあることに気付かせる。	【思考・判断・実践】 ・ 自分のよさに気付き、これからもよさを伸ばしていこうとしている。 ・ 友だちのよさを知り、理解しようとしている。 ＜発言・ワークシート＞

5. 事後の指導

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
6月12日 (水)～ 6月19日 (水)	・ 自分の立てためあてや取組について確かめながら取り組む。	・ 児童がいつでも意識できるように、めあての視覚化や声がけを行う。	【思考・判断・実践】 ・ 自分の決めためあてに向かって取り組んでいる。
6月20日 (木)	・ 1週間取り組んできたことについて自分で振り返り、みんなで共有する。	・ めあてを達成できたことや努力を称賛する。 ・ 単発的にはならず、これからの生活づくりに生かされるようにする。	・ 友だちと協力してよい学級づくりをしようと取り組んでいる。 ＜観察＞

6. 単元計画（2時間） ※ 内はめあて。

時間	学習活動	児童の思考の流れ	支援	評価
1	□絵本の読み聞かせから自分や友だちのよさを知る。	<p>みんなできょうりょく～すーぱー1ねんせいになるために～</p> <p>自分や友だちのよさを知ろう。</p> <p>〇〇ちゃんのいいところはやさしいところだね。</p> <p>じぶんのよさってなんだろう。</p> <p>ぼくは、はしるのがとくだよ。</p> <p>みんなそれぞれちがうよさがあるんだね。</p> <p>〇〇くんはこんなせいかくなんだね。</p> <p>こんな人が増えたらいいね。</p>	<p>・絵本「かみさまのおくりもの」を読み聞かせし、人にはそれぞれよさがあることに気付かせるようにする。</p> <p>・人はみなそれぞれ得意なことや苦手なことがあることに気づかせ、折り合いをつけながら協力して生活していくよさも伝える。</p>	<p>・友だちのよいところを知り、協力していく生活していくよさに気づくことができる。（集団活動や生活についての知識・理解）</p>
2	□アンケート結果を知り、よさと課題を見つける。 □すーぱー1年生になるには、どうしたらいいか話し合う。	<p>アンケート結果を知り、すーぱー1年生になるための方法を見つけよう。</p> <p>でもけんかをしないはむずかしいね。</p> <p>やさしいことばをかけちゃったらいいんじゃない。</p> <p>みんなとなかよくするためにはどうしたらいいかなあ。</p> <p>たのしいクラスがいいね。</p> <p>みんなとけんかせずにすごしたいな。</p> <p>こまっているともだちがいたらたすけてあげようよ。</p>	<p>・自分たちのアンケート結果をよさと課題に気づかせる。</p> <p>・自分の学級をよりよいものにしていくという意欲を高めるようにする。</p> <p>・難しい取組ではなく、今の自分たちにできる取組を進んで考えるように促す。</p> <p>・よさを認めながら児童から出た意見を生かす声かけを行う。</p> <p>・本単元の中で、児童の成長したところやめあてに向かって努力している過程に目を向け、評価をする。</p>	<p>・今の学級の実態を知り、どうしたらよりよい学級が作れるのかを話し合おうとしている。（集団生活や生活への関心・意欲・態度）</p> <p>・友だちの意見を参考にしながら、どのように生活に生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践ができる。（集団の一員としての思考・判断・実践）</p>

7. 本時の展開

(1) 本時のねらい

○自分たちの学級のよさや課題を知り、よりよい学級にするために進んで考え話し合っている。

(2) 評価規準

○学級の実態について知り、よりよい学級にしていくためにはどうしたらよいか考えることができる。

＜発言・ワークシート＞

(3) 展開

学習過程	児童の活動	指導上の留意点	幼児教育の特性を生かした指導のポイント	評価
つかむ 13:55 さぐる	1 前時までの話し合いを振り返り、問いを確認する。 (ぶつぶつタイム) 2 アンケート結果を見て、がんばっていることと課題を見つける。 3 本時の課題を提示する。	○全時の学習で学んだことや板書を掲示しておく。	ポイント1 姿② 環境E 前時のつながりから自然と課題に繋がるように工夫する。	
課題把握 14:10 見つける ・問いの共有 ・シラバス	《全体学習(10分)・1人学び(10分)・振り返り(5分)》 4 みんなで話し合い、どんな言葉や行動がいいのかを考える。 ・もっと優しい言い方をすればいい。(ふわふわ言葉) ・困っている人がいたら助けてあげる。 ・一人でいる人を見かけたら一緒に遊ぶ。 ・「ありがとう。」「ごめんなさい。」を言ったらいい。	○様々な解決方法が出るように声掛けをする。 ○事前に提案できる児童には短冊を渡しておき、発表できるようにしておく。	ポイント2 姿③⑥⑨ 環境C 援助2,4,8 友だちとの意見を言い合う中で認める・共感するなどの支援を大切に、児童が安心して発言できるようにする。	
集団解決 14:20 決める ・自力解決 ・考察	5 学級の課題に合った「努力すべきこと」を個人で決める。 ・ぼくは「ありがとう。」や「ごめんね。」をすぐに言うようにする。 ・わたしは困っている人がいたらやさしい言葉をかけるようにする。	○難しい取組ではなく、今の自分たちができるところを考えてめあてにするように声掛けをする。 ○児童から出てきた意見を認め、生活に生かしていくように声がけをする。	ポイント3 姿⑥ 援助3,4,11 一人ひとりのめあてを確認し、個々にあっためあてを提案する。	【思考・判断・実践】 ・友だちの意見を参考にしながら、 <u>どのように生活に生かしていきたいか具体的な方法を考え、進んで実践ができる。</u> (頑張りカード・観察)
14:35 ・振り返り	6 学習を振り返る。 ・今日の学習で分かったこと ・友達から学んだこと ・自分が頑張ったところ ・友だちのよいところ	○話し合いを振り返り、自分のがんばったところを自己評価するとともに、友だちのよかった点についても相互評価ができるように助言する。 ○前回の学級会と比べてよかったところ、次回への課題、学習リーダーへのねぎらいを伝えるとともに、実践への意欲を高める言葉がけをする。	ポイント4 姿③ 援助1 児童同士が話し合った過程を認め、評価する。 めあてに向かって意欲が高まる声掛けをする。	

8. 板書計画

<p>㊦ すうぱあ1ねんせいになるためにどうしたらよいか、はなしあおう。</p>				
<p>つかむ</p>		<p>さぐる</p>		<p>きめる</p>
<p>アンケート結果</p>		<p>がんばっていること</p>	<p>もっとがんばること</p>	<p>これからがんばること</p>
<p>1はん</p>	<p>2はん</p>	<p>3はん</p>	<p>みつける</p> <ul style="list-style-type: none">・やさしいことば（ふわふわことば） ○ありがとう ○ごめんね ○どうしたの ○だいじょうぶ・かっとなっても5びょう、がまんする。・しんこきゅうをする。・ともだちをさそう。 ○いっしょにあそぼう	
<p>4はん</p>	<p>5はん</p>			
<p>・「ありがとう。」「ごめんね。」をすぐにいう。</p> <p>・こまっているひとがいたらすぐにこえをかけてたすける。</p> <p>・ひとりのひとがいたらこえをかけていっしょにあそぶ。</p> <p>・じぶんからともだちにいちにち5かいほこえをかける。</p>				